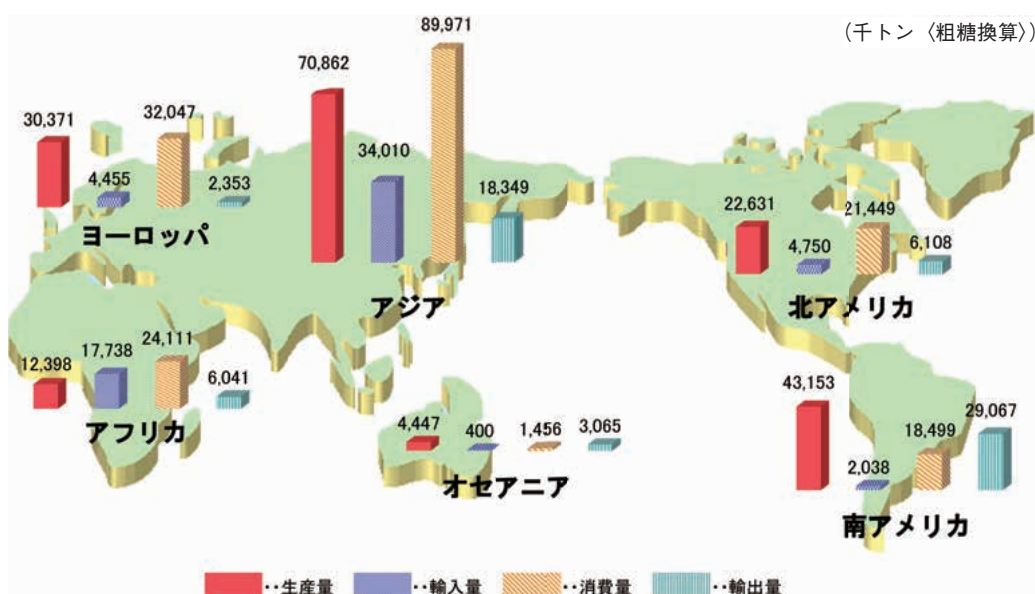


## 砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給（2021年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,924	180,618	68,044	81,095	44.9
2018/19	81,095	186,454	61,232	184,261	61,706	82,813	44.9
2019/20	82,813	181,205	69,619	182,327	71,154	80,155	44.0
2020/21	80,155	182,030	67,347	185,895	67,821	75,817	40.8
2021/22 (2021年9月予測)	77,182	183,737	62,827	187,092	64,929	71,725	38.3
2021/22 (2021年12月予測)	75,817	183,862	63,391	187,532	64,983	70,554	37.6

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっておりますので、次回は2022年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002606.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002606.html)

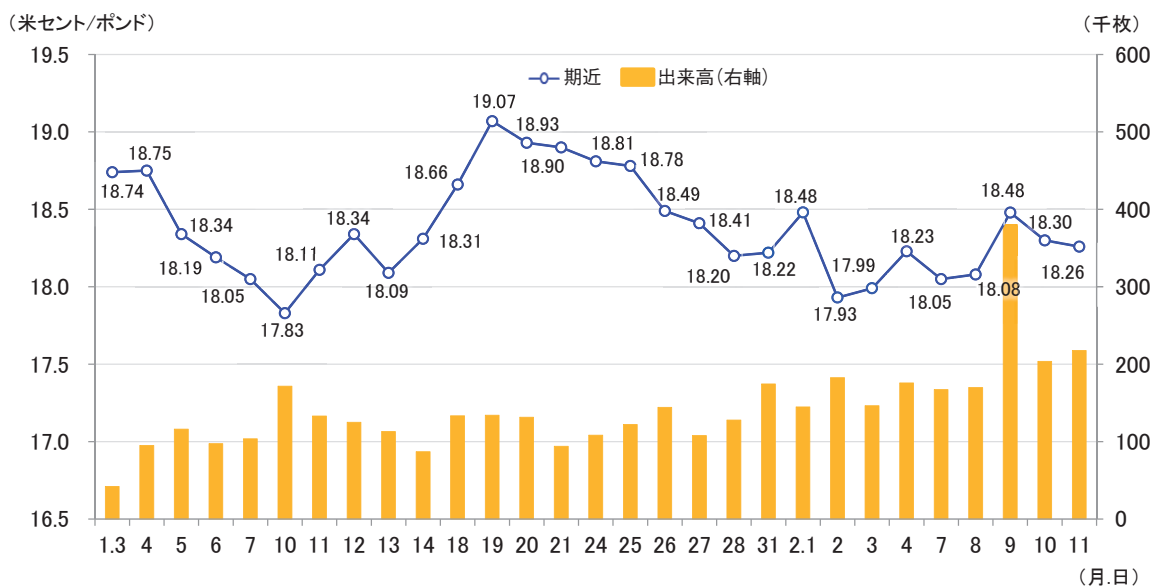
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002607.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002607.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/3～2/11）

～1月中旬に19セント台まで上昇するも、下旬以降は下落に転じ、18セント前半で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2022年1月の推移を見ると(3月限)、3日は、インド製糖協会(ISMA)が2021/22年度(10月～翌9月)の12月末時点の生産実績が前年同期から増加したと発表したことを受け、12月31日の1ポンド当たり18.88セント<sup>(注1)</sup>から同18.74セントまで下落した。5日以降は、ブラジルやインド、タイなどでの増産見込みから続落し、10日は同17.83セントまで値を下げた。11日以降は、原油価格の上昇<sup>(注2)</sup>やリアル高の動き<sup>(注3)</sup>に合わせて上昇し、13日には同18.09セントまで下落したものの、19日は同19.07セントまで値を上げた。その後は原油価格の落ち込みや、世界の砂糖需給の緩和が懸念されたことで下落が続ぎ、28日は同18.20セントまで値を下げた。

2月1日は、最近の原油高を受けてブラジルの製

糖業者がエタノール生産量を増やすとの思惑から、同18.48セントまで値を上げた。2日は、ブラジルスアウキビ産業協会(UNICA)が同国中南部地域における1月前半のエタノール販売量が前年同期から大幅に減少したと発表したことを受けて、同17.93セントまで急落した。4日は、原油価格の上昇を受けて同18.23セントまで値を上げた。9日は、商品先物や金融市場が上向く中、同18.48セントまで上昇した。10日は原油価格の動きを受けて下落に転じ、11日は同18.26セントまで値を下げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サ

トウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年2月時点予測)

#### ブラジル

##### 2021/22年度(4月~翌3月)の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積: 868万ha (前年度比0.3%増)  
生産量: 5億8250万トン (同11.4%減)

###### 【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量: 3808万トン (同14.6%減)  
輸出量: 2758万トン (同19.0%減)

#### 2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく減少し、輸出量も大幅に減少する見込み

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)による2022年2月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、868万ヘクタール(前年度比0.3%増)と横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、中南部地域において乾燥気候が継続した上、7月などに霜害も発生したことにより5億8250万トン(同11.4%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖生産量は、サトウキビの減産を受けて3808万トン(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同14.6%減)と、依然としてかなり大きく減少すると見込まれる。輸出量も同様に、砂糖の減産や、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などで同国産の粗糖需要が低下していることから、2758万トン(同19.0%減)と大幅な減少が見込まれる。

#### サトウキビ部門の発電能力が12ギガワットに到達

UNICAは2022年1月30日、サトウキビ部門の発電量が22年1月時点で1万2053メガワット(最大出力、以下同じ)に達し、同国最大の水力発電所の能力(1万1233メガワット)を上回ったと発表した。

UNICAによると、サトウキビ部門の発電量は水力、化石燃料、風力に次いで高く、同国の総発電量の6.6%を占めている(注)。ブラジルでは、サトウキビ部門の発電として、バガスやトラッシュ(梢頭部や葉)を主燃料とする火力発電所が413カ所、バイオガスを使用する火力発電所が2カ所存在するが、発電量の約85%はサトウキビ主産地である4州で生産されている。内訳としては、サンパウロ州(6333メガワット、53%)、ミナスジェライス州(1417メガワット、12%)、ゴイアス州(1362メガワット、11%)、マトグロソ・ド・スル州(1078メガワット、9%)の順となっている。

UNICAのバイオマス電力部門の責任者は、「バイオマスはブラジルのエネルギー業界にとってすでに重要なものであるが、これらをさらに活用すること

で、同国のバイオマス発電の割合が引き上がる可能性はまだある」と述べている。

(注) うち、バイオガス由来の発電能力は32メガワット。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

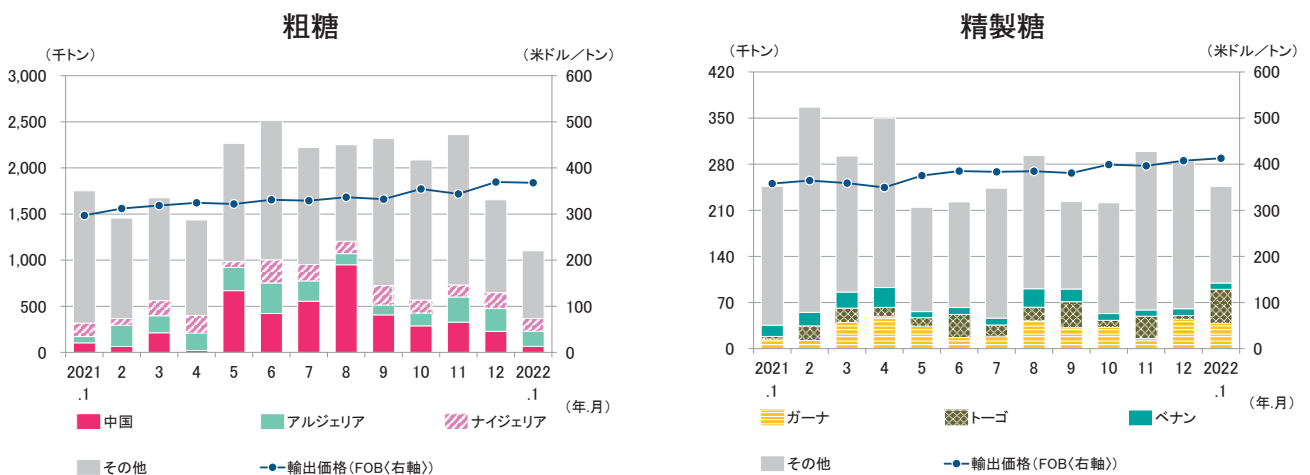
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (1月予測)	2021/22 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,651	8,676	8,676	0.3%	
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,432	582,500	582,500	▲11.4%	
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,597	38,100	▲14.6%	
	輸入量	4	5	5	2	5	1.9%
	消費量	10,374	10,842	10,996	10,800	10,756	▲2.2%
	輸出量	21,017	20,321	34,042	27,556	27,579	▲19.0%
	期末在庫量	3,132	3,777	3,341	3,081	3,091	▲7.5%
	期末在庫率	10.0	12.1	7.4	8.0	8.1	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## インド

### 2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：499万ha(前年度比2.1%増)

生産量：4億1850万トン(同4.1%増)

#### 【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3440万トン(同2.2%増)

輸出量：736万トン(同13.8%減)

### 2021/22年度の砂糖生産量と輸出量は、前月予測から上方修正

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの

収穫面積は、499万ヘクタール(前年度比2.1%増)とわずかな増加が見込まれる(表3)。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状

況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億1850万トン（同4.1%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した10月頃の大雨の影響が当初の見込みより小さいとみられるほか、主産地のマハラシュトラ州のサトウキビの品質が予想を上回っていることを受けて前月予測から上方修正され、3440万トン（同2.2%増）とわずかな増加が見込まれる。輸出量は、粗糖の輸出が伸び悩む一方、精製糖の輸出は順調に行われている状況を受けて、前月予測から上方修正されたものの、依然として736万トン（同13.8%減）とかなり大きな減少が見込まれる。近年、インドの在庫状況が

改善される中、21年12月、世界貿易機関(WTO)紛争処理委員会(パネル)が公表したインド政府の砂糖政策に関する報告書では、同国のサトウキビの最低買い取り価格や砂糖の輸出補助金がWTO協定に違反していると結論付けられた<sup>(注)</sup>。現時点において21/22年度の輸出補助金政策は実施されていないものの、同国産砂糖の輸出価格が上昇基調にある中、今後の同国産砂糖輸出の動向が注目される。

(注) 詳細については、2022年1月13日付海外情報「WTO紛争解決委、インドの砂糖政策を協定違反と裁定」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003153.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003153.html))を参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

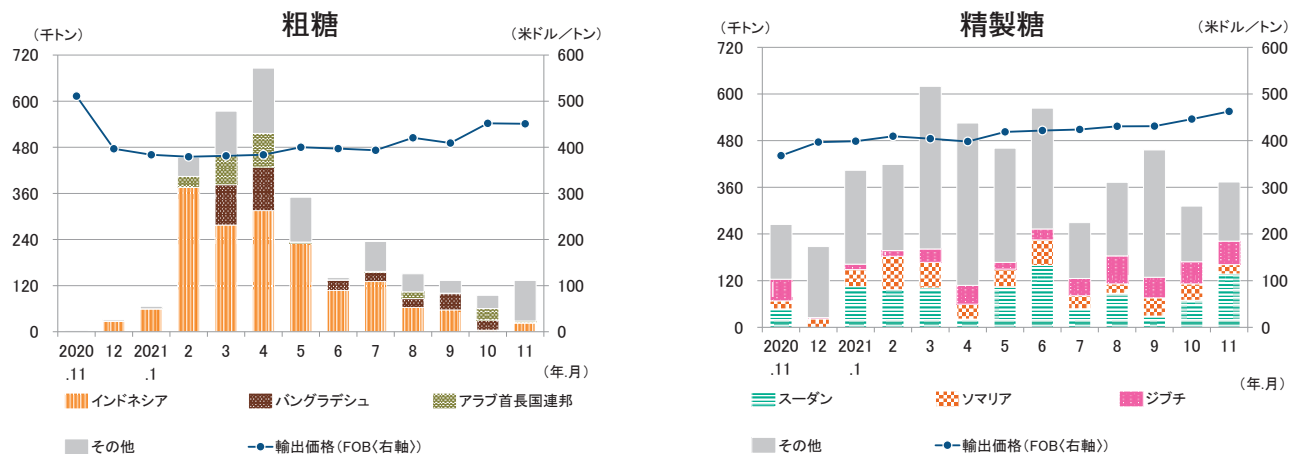
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (1月予測)	2021/22 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,888	4,985	4,993	2.1%	
サトウキビ生産量	404,528	369,849	402,033	410,626	418,495	4.1%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	33,210	34,397	2.2%
	輸入量	664	1,687	1,022	486	108	▲89.4%
	消費量	27,540	27,108	28,679	29,052	29,052	1.3%
	輸出量	5,483	8,254	8,538	7,305	7,356	▲13.8%
	期末在庫量	14,963	10,833	8,279	5,296	6,375	▲23.0%
	期末在庫率	45.3	30.6	22.2	14.6	17.5	4.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。



## 中国

### 2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：112万ha（前年度比3.6%減）  
生産量：7389万トン（同0.4%増）

#### 【てん菜】

収穫面積：14万ha（同37.8%減）  
生産量：739万トン（同40.3%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1071万トン（同7.1%減）  
輸入量：641万トン（同20.7%減）

### 2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度減少し、輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール（前年度比3.6%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の天候が良好であるため、7389万トン（同0.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により<sup>（注）</sup>、14万ヘクタール（同37.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、冬季の寒波が想定以上に影響すると見込まれることで前回予測から下方修正され、739万トン（同40.3%減）と大幅な減少が見込まれる。

砂糖生産量は、てん菜糖生産量の減少を受けて1071万トン（同7.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き2021年も国内需要を上回る量の砂糖を輸入したことで、国内在庫の積み増しが想定されることから、641万トン（同20.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

（注）同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告（2021-2030）」を公表（飼料編）（中国）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_002967.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.html)）を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

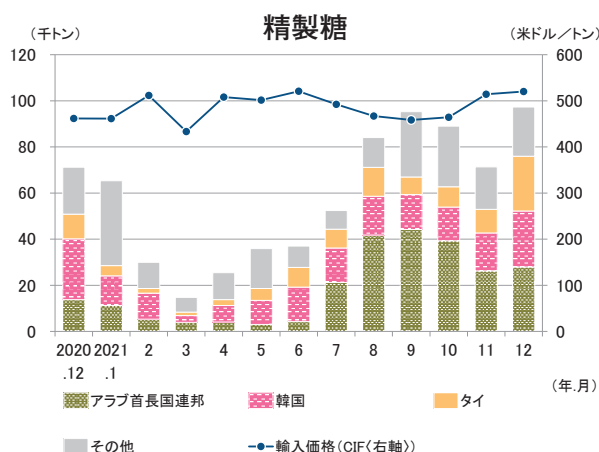
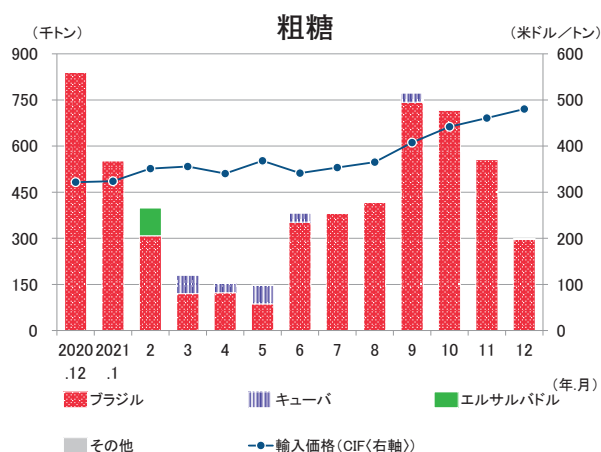
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 （1月予測）	2021/22 （2月予測）	前年度比 （増減率）	
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲3.6%	
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	73,890	73,890	0.4%	
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲37.8%	
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	8,100	7,391	▲40.3%	
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,839	10,709	▲7.1%
	輸入量	5,038	6,594	8,091	6,050	6,412	▲20.7%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	152	130	▲2.0%
	期末在庫量	11,218	12,465	15,105	15,183	15,249	0.9%
	期末在庫率	67.0	75.1	89.0	89.3	89.8	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha（前年度比1.0%減）

生産量：1億1176万トン（同13.6%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1715万トン（同13.3%増）

輸出货量：139万トン（同9.8%増）

2021/22年度の輸出货量は、かなりの程度増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる（表5）。てん菜生産量は、干ばつの影響を受けた前年と比べ、今期は生育期間の降雨量が多く、生育状況が順調であることから、1億1176万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の増産を受けて1715万トン（同13.3%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出货量は、生産量の増加などを踏まえ、139万トン（同9.8%増）とかなりの程度増加するものの、依然として100万トン台前半で推移すると見込まれる。

フランス、2022年播種期のネオニコチノイド系農薬の緊急使用を許可

2022年のてん菜の播種期に向けて、萎黄病を媒介するアブラムシを防除する効果のあるネオニコチノイド系農薬（イミダクロプリドおよびチアメトキサム）で処理されたてん菜種子の緊急使用を許可するフランスの政令が、2月1日付けの官報に掲載された。EUでは、ミツバチなどに与える影響が懸念されるとして同農薬の圃場散布が制限されており、同国でも18年以降、使用が禁止されていた。しかし、20年に萎黄病が流行したことを受けて、同年末に同農薬のてん菜種子への使用を、21年から最大23年まで許可する法案が可決されていた。

同国のてん菜生産者組合（CGB）は、「てん菜生産者や業界全体が待ち望んでいたこの政令を歓迎する」とのコメントを発表した。一方、ミツバチやその他昆虫への影響を軽減するために、処理済てん菜

種子を播種した圃場においては、翌年から3年間にわたり、栽培品目が制限されたことに対し、「生産者が当該制限を嫌悪し、他の高収益性作物に移行することで、てん菜栽培面積の減少や不十分な輪作を引き起こす可能性がある」として懸念を示した。

## 欧州製糖業界団体、英国政府による精製用粗糖の関税免除枠延長を懸念

欧州砂糖製造者協会（CEFS）の2022年1月17日付けの声明によると、英国政府は、21年1月に設定した粗糖に対する26万トンの自主的関税割当（ATQ）<sup>（注1）</sup>の期限を24年12月31日まで延長すると発表した。ATQを利用できる国の制限はなく、輸入量がATQの割当量に達した場合は、最恵国待遇（MFN）関税である100キログラム当たり28.00ポンド（4452円）<sup>（注2）</sup>が適用される。英国政府は、ATQが国内のてん菜生産者に影響を及ぼさないと分析しているものの、全英農業者組合

（NFU）は、同国で許可されていない農薬や栽培技術を用いた粗糖、また、輸出国の補助を受けた粗糖が世界中から輸入されるとして、反対の姿勢を示している。

また、ATQの期限延長についてCEFSは、この度の延長は、EU、ACP諸国（EUの旧植民地であるアフリカ、カリブ、太平洋諸国）およびLDC諸国（後発開発途上国）の砂糖生産者のみに適用される譲歩（特惠関税）<sup>（注3）</sup>の棄損につながることから危機感を覚えるとして、NFUと同様に懸念を示した。

（注1） Autonomous tariff quotas（自主的関税割当）は、数量を限定して関税を免除するもの。詳細は下記参照（英国政府HP：<https://www.gov.uk/guidance/duty-suspensions-and-tariff-quotas>）。

（注2） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の1月末TTS相場である1ポンド=159（158.72）円を使用。

（注3） 英国は、EU、ACP諸国およびLDC諸国産の粗糖および白糖を無税で輸入する措置をとっている。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (1月予測)	2021/22 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,599	1,517	1,476	1,461	1,461	▲1.0%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,420	110,386	111,763	13.6%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,138	17,260	17,153	13.3%
	輸入量	2,349	2,230	1,923	1,592	1,858	▲3.4%
	消費量	17,578	17,156	16,773	17,254	17,310	3.2%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,384	1,386	9.8%
	期末在庫量	1,705	2,314	1,340	1,590	1,656	23.5%
	期末在庫率	8.5	12.4	7.4	8.5	8.9	1.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2022」

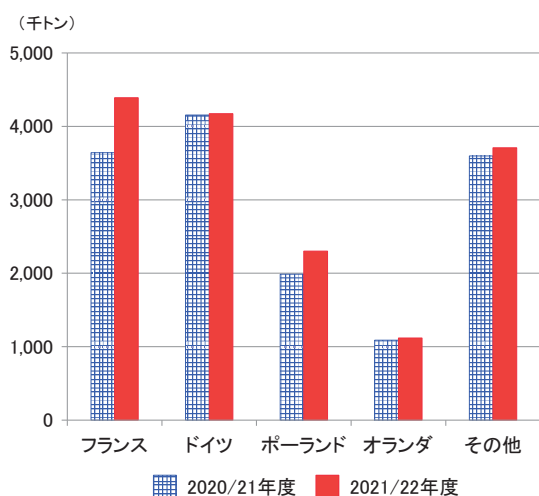
注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。



(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年9月時点)

EUの砂糖生産見通し

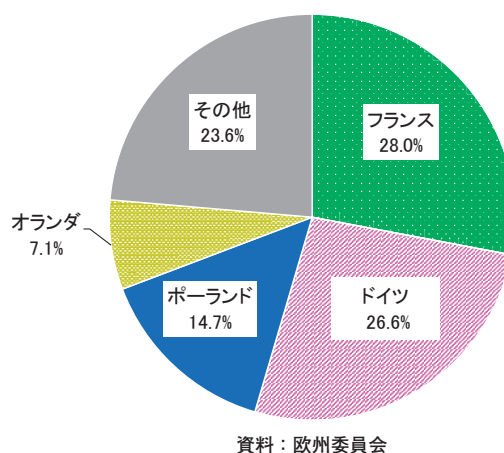


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度は予測値。

国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2022年2月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2021年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

### 豪州

#### 2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.2%減）

生産量：3011万トン（同3.1%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：415万トン（同5.3%減）

輸出量：310万トン（同7.6%減）

### 2021/22年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3011万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による都市封鎖や主力製糖工場での機械故障などによる稼働率の低下、収穫期終盤の豪雨による収穫作業の遅れなどが影響し、415万トン（同5.3%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、生産量の減少を受けて、310万トン（同7.6%減）と減少傾向が続くと見込まれている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (1月予測)	2021/22 (2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	379	364	354	350	350	▲1.2%
サトウキビ生産量	32,493	30,046	31,074	30,392	30,114	▲3.1%
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,385	4,182	▲5.3%
	輸入量	18	17	10	15	47.5%
	消費量	1,044	1,056	1,036	1,062	2.5%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,103	▲7.6%
	期末在庫量	971	776	779	761	0.5%
	期末在庫率	21.1	17.2	17.7	18.3	18.8

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2022]

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9250万トン（同38.8%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1097万トン（同37.6%増）

輸出量：797万トン（同2.0倍）

### 2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と横ばいで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が平年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9250万トン（同38.8%増）と平年を下回るものの、大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ生産量の大幅な回復を受けて1097万トン（同37.6%増）と大幅に増加すると見込まれ、輸出量もサトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて、797万トン（同2.0倍）と大幅な回復が見込まれる。なお、期末在庫量は、増産見込みながらも、輸出量の大幅な回復から452万トンと前年度よりも減少し（同10.3%減）、期末在庫率も39.4%（同27.5ポイント減）と19/20年度に近い水準にまで大幅に低下すると

見込まれる。

### 製糖団体がサトウキビ確保に向け、取引価格の引き上げを政府に要請

2月8日付けの現地報道によると、タイ製糖協会（TSMC）は生産者の作付け意欲の向上を目的に、サトウキビの最低取引価格の期首価格<sup>(注1)</sup>の引き上げを政府に要請としている。

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの期首価格は、同国工業省内に設置されるサトウキビ・砂糖委員会（TCSB）<sup>(注2)</sup>によって1トン当たり1070バーツ（3777円）<sup>(注3)</sup>、また、生産者への支払額算定に使用する基準糖度（納入時の糖度により生産者への支払額が算定される）は10CCS<sup>(注4)</sup>と定められている。このうち期首価格については、生産者が要請した同1100バーツ（3883円）には届かなかったものの、当初案の同1040バーツ（3671円）からは引き上げられていた。

この状況を踏まえTSMCは、22/23年度および

23/24年度の期首価格を、同1200バーツ（4236円）まで引き上げる案を掲げ、本引き上げにより、作付品目の選択におけるサトウキビの競争性が向上し、他作物からの転作が期待できるとした。また、併せて基準糖度の12.63CCSへの引き上げも政府に要請するとし、焼き畑によらない方法で収穫される、高品質なサトウキビの納入を生産者に促したいとしている。

(注1) 同国では、サトウキビ・砂糖委員会(TCSB)が当該年度の砂糖産業の収益とサトウキビの生産量を推定し、压榨が始まる前にサトウキビの最低取引価格の期首価格を公表する。その後、年度終了時の

実績に基づき砂糖産業の収益を再計算し、翌10月ごろに期末価格を決定する。製糖企業は、期首価格に基づきサトウキビ生産者に概算払を行い、期末価格に基づき精算する仕組みとなっている。

(注2) TCSBは、サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関であるタイ政府の3省（工業省：製糖関係、農業協同組合省：原料作物関係、商務省：砂糖の売買関係）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成されている。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の1月末TTS相場である1タイバーツ=3.53円を使用。

(注4) 可製糖率（CCS）とは、サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合を指す。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

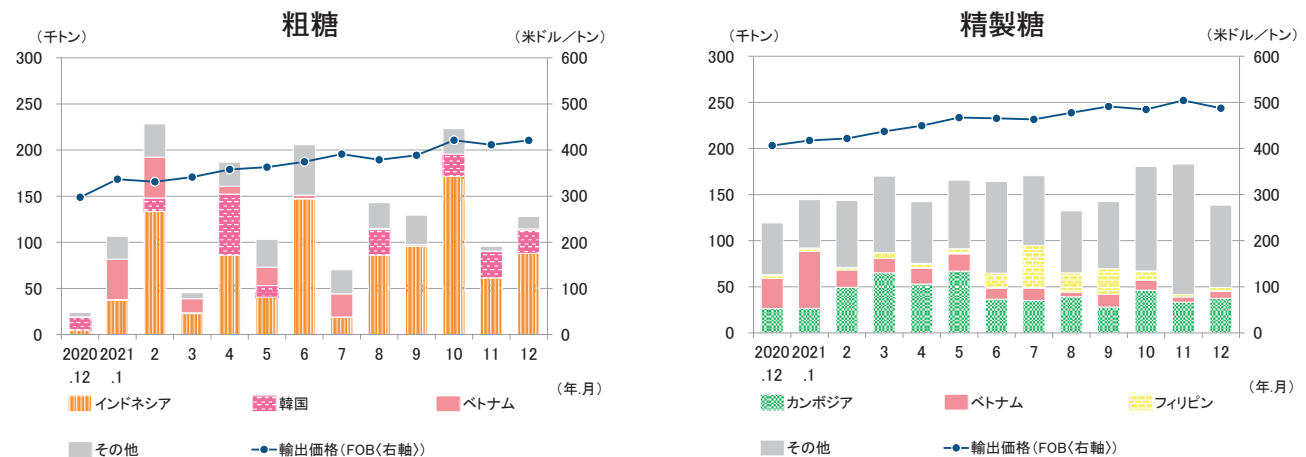
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (1月予測)	2021/22 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,500	92,500	38.8%	
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,862	10,966	37.6%
	輸入量	4	59	86	3	3	▲96.5%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	3,521	▲2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,966	7,966	2.0倍
	期末在庫量	7,899	4,525	5,041	4,313	4,523	▲10.3%
	期末在庫率	57.0	37.0	66.8	37.5	39.4	27.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。